翻訳内容：

要旨

本研究は、台湾が日本に統治されていた時期（1895～1945）における八重山諸島と植民地の台湾、領地人・物事の移動を通し、台湾人が八重山諸島に移住した理由・台湾人の分布状況・人口・台湾人はどこから離れたのか・台湾人と共に来た産業はどうやって八重山の主力産業となったのか・地元の生活や仕事との違い・八重山にて台湾人口の比例などについて検討したい。その結果によって台湾に引っ越した沖縄県八重山諸島の人の数・地域分布・仕事などを再び検討し、最後に台湾と八重山諸島に互いに往来した移民の差異とそれぞれの特徴を比較してまとめるつもりである。台湾と八重山諸島が同じ国家体制である上の移民・労働力・品物の交流による衝突は、地域で違う言語と文化の対話を始めさせたと予想される。

台湾が日本に統治されてから、八重山はだんだん「日本」から離れ、台湾が取って代わるようになった。植民地の産業の発展と共に、数多くの琉球人と八重人も国の力に占拠される台湾に入ったが、琉球人は「日本の生蕃」と台湾人に差別されたという。一方、八重山諸島に引っ越した台湾人も台湾や地元の文化を一緒に持って行ったが、民族文化の違いで開墾することは一層難しくなった。同じ日本帝国に属する関係の上で、違う民族の往来・文化移植・産業移転という点についての検討は本研究の目的である。

キーワード：八重山諸島・植民地台湾・文化移植・労働力移動領地

目次

一. 研究動機…… P1
二. 研究目的…… P2
三. 研究地域…… P3-P4
四. 文献で振り返る…… P4-P8
五. 研究方法…… P9
六. 研究構造……P9-P10
七. 研究スケジュール…… P10
八. 所期の成果…… P11
九. 参考文献…… P11-P12

一.　研究動機

日本の沖縄県は台湾と同じ海で隔たり、東台湾との最も近い距離はわずか 110 キロしかない。しかし、私たちは沖縄の歴史発展と両国の交流についてはほとんど分からないのである。元々の沖縄県は独立した琉球王国（1429～1879）であり、国家の領土・政府・人民などを持っていた。昔から中国と朝貢、冊封などのやりとりがあり、君臣関係であった。1874 年、日本は宮古島と小田県[1]の漁民は災害に遭って台湾南部に漂着したが、「生番」[2]に殺害されたことを理由として、台湾に挙兵しただけでなく、琉球王国は日本に保護されると当時の清国に認めさせたため、琉球王国は両国にも朝貢しなければならなくなった。1879 年、日本が琉球王国への「琉球処分」により、琉球王国は日本に管轄される沖縄県になった。この時期の台湾も各国に狙われたことにより、台湾に対して清国は見直して積極的な管理を余儀なくされたのであった。1895 年、日清戦争で日本が勝ち、台湾は日本帝国の最初の海外植民地になり、琉球と台湾はこのときから日本国の領土になったのであった。

「八重山は山ではなく、台湾の東にある海における諸島のことです。日本沖縄県に属するのに、台湾との距離は那覇よりも近い…」（松田良孝、2012）台湾に近いし、黒潮もこの地域を通るので、漁民にとって八重山は昔から重要な漁場なのである。台湾が日本の領土になってから国境はなくなり、内台航路[3]の開拓により、人と貨物の交流は更に頻繁になった。1935 年、沖縄県政府が台湾で行った人口調査の結果により、台湾に住んでいた沖縄人は 3930 人で、八重山地方からの人は 1454 人で、全体の 37%を占めていた。同年の国勢調査では、八重山地域の人口は沖縄県全体のわずか８%だった。その結果から見れば、移民の比率はほとんど同じであった。第二次世界大戦の間、迫ってくるアメリカ軍に対し、当時に数多くの琉球人民は台湾に疎開して行った。中国語では「疏開」[4]という。この臨時に目的を持つ大規模な移動行為については、本研究はここで深く検討しません。

本研究は日本が台湾を統治していた 51 年間で、台湾人が八重山諸島に移住した理由・台湾人の分布状況・人口・台湾人はどこから離れたのか・台湾人と共に来た産業はどうやって八重山の主力産業となったのか・地元の生活や仕事との違い・八重山にて台湾人口の比例などについて検討し、台湾人移民の特徴をまとめるつもりである。

二. 研究目的

---

[1] 1871 年に廃藩置県が行われた。最初は深津県と言い、翌年は小田県と改名された。1875 年に、東小田県が岡山県になり、西小田県が広島県になった。

[2] 「生番」とは本文では原住民を差別する意味ではなく、当時の言い方を使用するつもりである。

[3] 大阪商船三井船舶株式会社（1966）によれば、最初の内台航路は２つあったという。（１）神戸―下関―長崎―鹿児島―沖縄―基隆、１か月に１回航行するのであったという。（２）神戸―鹿児島―大島―沖縄―基隆、１か月に２回航行するのであったという。最初に使われた船「須磨丸」は 1895 年 5 月 5 日から神戸発で（１）のルートを航行し始め、台湾までは９日かかるという。

[4]「疏開」は疎開という意味である。台湾の日本統治時代に、台湾総督府が 1944 年 6 月 18 日に発表した用語である。これは、アメリカ軍が台湾へ空襲する際、死傷者を減らすための緊急疎開政策であった。特に 1944 年 10 月 12 日からの台湾沖航空戦の間に、数多くの琉球人民は臨時に台湾へ疎開して行ったのであった。

台湾自らの視点・島という特性で周辺国を見ることを教授するのは、台湾の義務教育ではあまり重視されていないと考えられる。教科書では、かつての台湾島での盛んになっていた貿易の歴史のことも教えないである。その代わりに、海で貿易を行った人たちのことを「倭冦」として見られる。残念なことに、八重山と台湾の移民についての研究は、台湾の地理と歴史学界においては人気なテーマではないようである。したがって、以下のポイントから更に深く検討を進めたい。

1) 台湾と琉球の関係の歴史について論述したい。
2) 八重山諸島の台湾人移民が移居した理由・人口・移動手段・分布地域・職種等について分析したい。
3) 八重山に入った台湾人がパイナップル産業・稲作・サトウキビ・鉱業等、植民地経済の特徴が鮮明な産業を選択した理由を分析したい。
4) 台湾人と地元民の衝突と協力、文化移植等について検討したい。
5) 綜合性論述有關台籍移民的特性與移民者於原鄉的工作與生活型態進行比較。台湾人移民の特徴を総合的に論述し、そして台湾人移民の地元での職業と生活に比べる。

三. 研究地域

本研究の目標地域は主に台湾人と八重山諸島にする。「八重山」は台湾の東側までは約 110 キロしかないが、沖縄の南西までは約 400 キロ遠いところにある。八重山諸島は日本領土の中で、台湾に最も近い群島である。石垣島をはじめ、西表島、竹富島、黒島、小浜島、嘉弥真島、新城島、鳩間島、波照間島、与那国島など 10 個の有人島で構成される。周辺にはあと 19 個の無人島があり、宮古列島との総称は先島諸島である。以上の島は亜熱帯海洋性気候に属する。年平均温度は 24℃で、冬でも平均 18℃以上である。島の生成はプレートの動きにより、地殻が隆起して海底にある珊瑚を上まで押したため、今のような広く分布されている様子となっているのである。

日本の地域に分けると、今の八重山諸島は沖縄県に属する。石垣島は人口がより多いため、石垣市として独立しているが、西表島、竹富島、黒島、小浜島、嘉弥真島、新城島、鳩間島、波照間島、与那国島は八重山郡に属する。

この地域は元々琉球王国（1429～1879）の領土であった。干ばつに強い農作物と漁業が中心となり、人民は琉球国王に定期的に税金を納めていた。こういった状況は 1879 年まで続いてたが、その年に日本は琉球王国へ「琉球処分」を行ったため、琉球は日本に管轄される沖縄県となった。日本統治時代の台湾と同じ国に属していたので、数多くの台湾人移民は八重山地域に自由に進出することができたのであった。台湾人移民は、農業用器具・水牛・種苗も一緒に八重山に持って行った。近代化になって工業の技術導入により、西表島に含まれる大量の石炭も効率的に産出されていたのであった。新しく開墾された土地、新しい職業の誕生による人と物の移動は密着で流暢であった。そのゆえ、本研究は日本が台湾を統治していた時期における台湾と八重山の交流・互いに移動する関係を明確にさせるため、経緯をさかのぼってから研究目的に書いてあるポイントを検討するつもりである。

図 3.1 八重山諸島図（松田良孝、2012）

四.　文献で振り返る

参照した文献を分類すると、以下の通りである。

(一) 地域の歴史と日本統治時代の環境と政治

研究目的に書いてあった通りに、まず日本が台湾を統治していた時期における八重山と台湾のそれぞれの歴史を振り返る。最初により分かりやすい『大人の日本史』（大人的日本史）を通し、1872 年に日本国が琉球藩を設立してから、1879 年に廃藩置県して正式に日本国に属されたまでのことは「琉球処分」という。貿易するにせよ災害に遭って漂着するにせよ、昔の人はすでに東シナ海という海域で頻繁に交流していた。黄智慧の文章『人の群れの漂流移動の史料での民族接触と文化類縁関係：与那国島と台湾』（人群漂流移動史料中的民族接觸與文化類緣關係：與那國島與台灣）という文章は、違う性質だが同じく人の群れの漂流・移動を記録した 3 つの史料を参考し、文献で 15 世紀末から 19 世紀初頭にかけての台湾と八重山諸島の民族接触をさかのぼるのである。 1 つ目の史料は、朝鮮済州島人が与那国島まで漂着した経験と見聞である。 2 つ目は、『石垣市史叢書』である。17 世紀から 18 世紀初めまでの八重山諸島と台湾の交流史料が記録され、台湾は漂流者の身を落ち着けるところであり、彼たちは季節風気候がよくなるまで待つという内容が書かれているのである。 3 つ目は八重山当局が「唐船」の私貿易を取り締まるために定めた法令により、「高砂」から来る船はキリスト教やカトリック教の宣教師、及び密輸品等を密輸する可能性があると指摘されたという。以上の史料は東シナ海をめぐる国が 15 世紀から 19 世紀初頭までの海での交流の一部で、台湾と八重山諸島の民族接触と社会文化の類縁関係を示したのである。宜蘭県史館に収録されている黄智慧の文章『東方の海で起きた別種の遭遇：与那国島と台湾』（東方海上的另類遭遇：與那國島與台灣）には、日本統治時代に与那国島と台湾の貿易・漁業・人の移動関係が書いてあるのである。

台湾については、まず『帝国の侵入：牡丹社事件』（帝國的入侵: 牡丹社事件）を通し、台湾はなぜ日本の領土になったのかを理解する。琉球漂流民による琉球漂流民殺害事件から日本が台湾を企み始め、そして牡丹社事件が起きた後も清国が恒春半島に対する消極的な態度は改善せず、そして日清戦争により台湾が清国に日本に与えられたなどについて詳しく論述するのである。次に黄昭堂が著した『台湾総督府』（台灣總督府）を日本統治時代の政策背景とする。本作は台湾総督府の編年史のようで、日本統治時代の51年間での台湾総督と統治構造を中心に分析する。歴任の総督が実施した政策と効果を述べ、中立で全面的に日本が台湾を統治していた間の功罪と違う段階における台湾人の対処について検討するのである。

最後に又吉盛清が著した『日本植民地下の台湾と沖縄』を通し、庶民の視点から日本統治時代における台湾と琉球の交流を観察する。おまけに朱慧足の『帝国の辺境まで来た近代化の縁の下の力持ち：沖縄八重山諸島と植民地台湾と統治』（來自帝國邊境的近代化推動者：沖繩八重山諸島與殖民地台灣統治）という文献。内容は植民地の台湾へ仕事をしに来た八重山諸島出身者の自伝・回想録・インタビューを載せ、沖縄八重山諸島が植民地台湾を経営する火付け役になった後、日本語・日本文化・近代物質文明が沖縄の中心首里や那覇ではなく、遠回しに台湾を通して八重山に回流したという歴史背景と概況を紹介するのである。日本の近代化工程と帝国主義が１つになってからの八重山諸島と台湾の交流を検討し、近代化と日本文化の相互関係・近代化の不均等発展・資本集中化による労働者階級など、日本帝国の近代化における問題を際立たせるのである。この文献を通し、近代化になった台湾はどうやって文化・産業・住民を八重山に持って行ったのかも見えるのである。

(二) 八重山に移居した台湾人の人口と分布

八重山に移居した台湾人の人口と分布を詳しく理解するために、松田良孝が著した『植民地統治時期台湾から石垣島名蔵⊠嵩田地区への移動について—石垣町役場作成の寄留簿の分析を通じて』という文章を通し、石垣町の寄留[5]簿で当時に石垣島嵩田・名蔵地域に移居した台湾人の数量・年齢分布・寄留者の地元分布などの人口地理についての研究問題を記録したことが分かる。ところが、この記録は八重山諸島における最も大きな島——石垣島だけの記録なのである。1996年、石垣島嵩田地域の台湾人が資金を募って『嵩田：50年のあるみ』という本を編纂した。題名の「50年」は第二次世界大戦が終わってからの時間という意味である。林発の『沖縄パイン産業史』にも八重山に移居した台湾人の人口と職種の統計がある。以上の資料に八重山新報・八重山毎日新聞・八重山日報・先島朝日新聞・台湾日々新報・台湾時報など当時の新聞紙と総督府公文・沖縄統計資料書・台湾各州庁管内紀要の統計資料・『沖縄県史 第7巻移民』などの公式資料を加え、日本統治時代に八重山に移居した台湾人の人口・数量・分布を詳しく理解する。

(三) 台灣人於八重山的產業發展　台湾人が八重山での産業発展

文献によると、もともと宜蘭と花蓮と地元の人の漁民以外、台湾人が八重山に持って行った産業は植民経済の主な作物：稲・サトウキビ・パイナップルなどが多かった。もう一部は鉱業とのことであった。以上の産業について更に詳しく論述できるために、『沖縄パイン産業史』・『八重山開拓と台湾農民』で台湾人が八重山に移居してからパイナップル・稲作・サトウキビ・鉱業など植民経済性が鮮明な産業を選んだ理由を分析する。松田良孝が著した『八重山の台湾人』（八重山的台灣人）という本は石垣島の嵩田・名蔵地域の台湾人にインタビューの方式で台湾人の地元・在住地・職業・生活について詳しく記録し、第二次世界大戦が終わってから変わった身分台湾人の問題にも着眼し

[5] 本籍地以外のところに決まっている時間まで滞在すると、戸籍の寄留簿に記録される。

た。

(四) 協力・衝突・文化移植

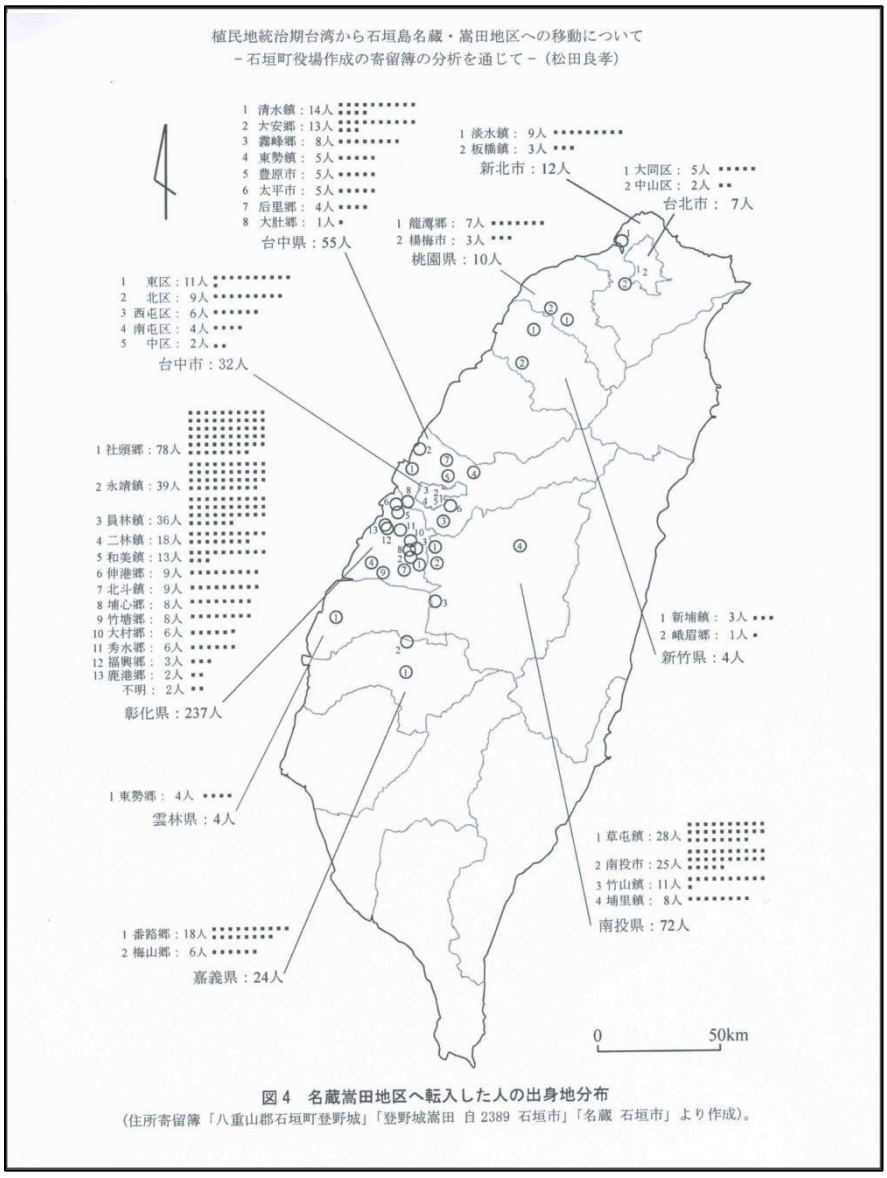
初めて八重山に移居した台湾人は、地元民と仲良くいられたか、外人とされたかはここで検討したいところです。『八重山の台湾人』（八重山的台灣人）・『辺境とされる「現代性」：沖縄八重山諸島と植民地台湾』（作為交界場域的「現代性」：往返於沖繩八重山群島與殖民地台灣之間）・『石垣島の台湾人—生活史にみる民族関係の変容(一)』などの文献で台湾人移民と地元民の衝突[6]と協力について検討する。そして、台湾人が八重山での文化移植を検討する。『八重山の台湾人』（八重山的台灣人）では、「台湾人移民が 30 頭の水牛を石垣島に開墾に連れに行った。でも、八重山人が土地を奪われるのが怖くて、水牛と台湾人のことをのけ者にし始めた。」八重山の地方紙でも、台湾人が水牛を使って効率的に耕せるのが怖かったから、当地の病気が増えたのは水牛のせいだという報道をわざと増やした。朱慧足の『辺境とされる「現代性」：沖縄八重山諸島と植民地台湾』（作為交界場域的「現代性」：往返於沖繩八重山群島與殖民地台灣之間）では、「八重山に移居した台湾人は、台湾の閩南文化を八重山に移植しただけではなく、八重山は民族の差異で、植民地人の差別と競争で台湾人移民を他者化するという論述……」という内容があった。台湾人はそれぞれの文化を八重山に持って行ったが、このような辺境地域では、暮らしを立てることと戦争期間の皇民化運動により、地域の内部の共同体を際立たせた。本文は「遠回しした日本と再移植した閩南」についても言及した。もともと出身地の八重山の方言しか話せない八重山人は、植民地の台湾から来た職業と生活に影響され、日本語、日本の精神と家庭規範などを勉強し始めた。最後に、野入直美の『石垣島の台湾人—生活史にみる民族関係の変容(一)』で検討する。生活史を中心に、日本統治時代から戦後の石垣島で台湾人社会の生い立ちについて論述する。台湾人が戦前に持って行ったパイナップル産業も戦後から八重山地域にとって重要な産業になり、台湾人と八重山人の関係も変化し始めた。変化について、衝突、戦争、転化、助け合いという過程も検討する。

---

[6] 日本統治時代の台湾では、漢人が一旦「琉球の服を着て、腕に刺青があって、裸足で歩きながら呼び売りする」という外見の琉球婦人を見ると、「日本の生番」という軽蔑な呼び方をするのであった。（又吉盛清 1994:54-55）

図 4.1 八重山諸島放大圖（松田良孝・2012）

図 4.2 名蔵⊠嵩田地区へ転入した人の出身地分布圖。



松田良孝（2013）．植民地統治時期台湾から石垣島名蔵⊠嵩田地区への移動について—石垣町役場作成の寄留簿の分析を通じて・移民研究、9、 P1-18

五. 研究方法

本研究は文献の分析・現地調査・インタビューなどの方法で台湾と八重山地域の移民研究を行う。前人がこのジャンルでの研究論文、雑誌論文などで文献を整理し、現地調査とインタビューで文献とインタビューの内容の相同と相違のところを確認する。詳しい内容は以下のようである。

1） 文献の分析

本研究は論文・書籍・雑誌・新聞・総督府の公文など、異なる文献と階級の視点で書いた文献を使用し、当時の歴史をさかのぼって整理してから総合的に検討に進める。

2） 現地調査

本研究の対象地域は台湾と割と近いが、国界と人口の老化などの原因で、昔交流していた人がいなくなってきた。今基隆港から石垣島まで直行便の国際フェリーはあるが、より時間がかかるフェリーの搭乗方式で考慮しないこととする。飛行機の場合は、今の時点では那覇で乗り換えるしか方法はない。それとも、花蓮空港には夏に不定期の直行便がある。宜蘭県蘇澳港が石垣島の港と 2016 年 5 月から通航し始める見込みである。

交通と時間などを考えれば、大学院にいる間に当地に 2 回に行く予定である。その前に、観察するポイントを立ててからインタビューの内容と合わせる。

3） インタビュー

インタビューを受ける人とグループは、八重山現地の組織か人物のことである。例えば、嵩田地域の市民団体と現地の台湾人とその後代である。八重山の現地記者の松田良孝と琉球大学の教授の野入直美が行った調査は文献の足りないところを補足することができる。著者も更にこの時期の歴史を詳しく知ることができたのである。

4） GIS 技術の導入と地図

本研究は GIS の技術により異なるテーマの地図を表示した。例えば、石垣島にいる台湾人口の分布・台湾人と八重山人の比例・移動ルート・産業の分布など、図を使用し、かつて当地人口の状況を視覚的に表示する。そして、GIS の空間解析機能を通じ、台湾人が八重山に居住する同質性と異質性をまとめるつもりである。

六. 研究構造

まず、文献で八重山地域とまだ先進国が台湾にまだ入っていないときの交流と歴史をさかのぼる。

次に、総督府の公文・八重山地方新聞（八重山新報・八重山毎日新聞・八重山日報・先島朝日新聞）・台湾日々新報・沖縄統計書・台湾各州庁管内概要などの資料で、日本統治時代に八重山諸島に移居した本島人[7]の人数状況・分布・職種・文化移植などの研究問題を整理する。

そして、文献で振り返るところの通り、八重山に移居した台湾人はパイナップル産業・稲作・サトウキビ・鉱業など、植民経済性が鮮明な産業を始めた理由を分析する。

また、台湾人と地元民との衝突・協力・文化移植を分析して整理する。

最後に、台湾と八重山の移民の特性を総合的に論述し、地元での職業と生活を比較する。

七. 研究スケジュール

本研究は 2015 年 10 月から始め、2016 年 6 月末までに研究計画を完成させる予定である。初歩の研究スケジュールは表 7.1 の通りである。

表 7.1 研究スケジュール

	2015 冬季(10-12 月)	2016 春季(1-3 月)

[7] 日本統治時代に、台湾漢人・原住民・日本人のことを、本島人・蕃人（高砂族）・内地人という呼び方で日本人が区別するのであった。

文獻回顧						
田野調査與訪談						
GIS 出圖						
文本撰寫						
	2016 夏季(4-6 月)			2016 秋季(7-9 月)		
文獻回顧						
田野調査與訪談						
GIS 出圖						
文本撰寫						
	2016 冬季(10-12 月)			2017 春季(1-3 月)		
文獻回顧						
田野調查						
GIS 出圖						
文本撰寫						
	2017 春季(4-6 月)					
文獻回顧						
田野調查						
GIS 出圖						
文本撰寫						

八.　所期の成果

本研究が目標とする研究地域は八重山諸島全体である。現在では、この地域に関する書籍と文献は、ほとんど八重山におけるより大きな集落と島を中心とする内容しかない。例えば、石垣島・与那国島・西表島などである。八重山地域全体を取り上げる文献はあまりないのである。『八重山の台湾人』は八重山をテーマにするが、主に当地域では最も大きい、人口も密集している政治中心の石垣島に関する内容だった。そのゆえ、作者が収集した資料も主に石垣島で、嵩田、名蔵など台湾人の集落を中心とするのである。史料と現地調査で歴史をさかのぼる以外、著者が GIS を使い、図で人口議題（ラスターデータの人口分布図）と空間の特色を表すつもりである。

九.　参考文献

（一）　書籍

1. 黃昭堂（2013）『台灣總督府』前衛出版社.
2. 又吉盛清（1997）『日本殖民統治下的台灣與沖繩』前衛出版社.
3. 戴寶村（2008）『帝國的入侵: 牡丹社事件』自立報社.
4. 涂豐恩（2015）『大人的日本史』平安文化.
5. 松田良孝（2012）『八重山的台灣人』行人出版社.
6. 沖縄県教育委員会（1974）『沖縄県史 第七巻 移民』沖縄県教育委員会.
7. 渡辺盛暉（1992）『八重山開拓と台湾農民』凱風社.
8. 嵩田公民館紀念誌編集委員会（1996）『嵩田：50 年のあるみ』嵩田公民紀念誌編集委員会.
9. 牧野清（1972）『新八重山史料』自費出版.
10. 林発（1984）『沖縄パイン産業史』自費出版.

（二）雑誌記事

1. 黃智慧（1995）「東方海上的另類遭遇：與那國島與台灣」『宜蘭文獻』第 17 号, p.1-11 .
2. 黃智慧（1997）「人群漂流移動史料中的民族接觸與文化類緣關係：與那國島與台灣」『考古人類學刊』第 52 号, p.19-41.
3. 野入直美（2000）「石垣島の台湾人—生活史にみる民族関係の変容(一)」『琉球大学法文学部人間科学紀要：人間科学』第五号.
4. 朱惠足（2007）「作為交界場域的「現代性」：往返於沖繩八重山群島與殖民地台灣之間」『文化研究』第五号, p.49-86.
5. 松田良孝（2013）「植民地統治時期台湾から石垣島名蔵⊠嵩田地区への移動について—石垣町役場作成の寄留簿の分析を通じて」『移民研究』第九号, p.1-18.

（三）その他

1. 研究会論文：
朱惠足（2002）「來自帝國邊境的近代畫推動者：沖繩八重山諸島與殖民地台灣統治」『重訪東亜：全球、東亜、國家、公民暨 2002 年文化研究學會年會』研究会, 2002 年 12 月 14-15 日, 台中, 東海大學.
2. 公式資料：總督府公文・沖縄統計書、台湾各州庁管内概要など.
3. 新聞紙：八重山新報、八重山毎日新聞、八重山日報、先島朝日新聞、台湾日々新報、台湾時報.

原文：

摘要

本文透過日本統治台灣時期的八重山諸島與殖民地台灣間人、物的移動，討論台灣人為何要移入到八重山諸島、台人分布狀況、人口數量、從台灣哪些地區移出、台人所帶入之產業如何在往後成為八重山之經濟主力、與原鄉生活、工作之差異、與在當地所佔人口比例等問題，承上再綜合性的討論從沖繩縣八重山諸島的人移入台灣居住者數量、分布地點、從事行業等，最後比較、歸納兩地相互移動之移民差異與各自特色。兩地之間移民、勞動力、物品相互交換，藉由在同一國家體系中凸顯出在交流時的種種衝突，在此地區展現出不同語言文化的交錯與對話。

台灣開始屬日本統治後，八重山漸漸遠離「日本」，取而代之的是台灣，隨著殖民地統治事業的展開，許多琉球人、八重山人亦參與這場由國家力量進入的「台灣」，但琉球人也受到本島人的刻板印象，被稱為日本的生蕃。另一方面，台灣人移入到八重山諸島亦將本島或原鄉之文化移植至此區，因民族文化的差異，也使這段開墾的歷史備受艱辛與考驗。在同屬日本帝國的牽動下，不同民族的相互移動、文化移植、產業移植是本文主要之探討。

關鍵詞：八重山諸島、殖民地台灣、文化移植、勞動力移動

目錄

一. 研究動機…… P1
二. 研究目的…… P2
三. 研究區域…… P3-P4
四. 文獻回顧…… P4-P8
五. 研究方法…… P9
六. 研究架構……P9-P10
七. 研究時程…… P10
八. 預期結果…… P11
九. 參考文獻…… P11-P12

一.　研究動機

日本沖繩縣與台灣隔海相鄰，最近之地距台灣東部僅 110 餘里，但對其歷史發展與兩地的互動關係卻認知極少。沖繩縣原為獨立的琉球王國(1429-1879 年)，有著自己的疆域、政府、人民，長久來與中國不同朝代有著朝貢封冊的臣屬階層。1874 年，日本藉以宮古島船民與小田縣[8]船民，因天災漂流至台灣南部遭受「生番」[9]殺害為由，出兵台灣，並迫使清國承認琉球王國受日本保護，因此又與日本有著朝貢的臣屬身份，成為雙重朝貢的琉球王國，但 1879 年日本近一步對琉球王國進行「琉球處分」，成為日本管轄的沖繩縣。台灣也在此一時期受到各國覬覦，使清帝國重新審視並出於被迫得轉向積極治台。1895 年，甲午戰爭(日稱日清戰爭)日本戰勝，台灣成為日本帝國的第一個海外殖民地，琉球與台灣也從此被劃入日本國的領土範圍中。

「八重山不是山，而是台灣東邊海面上的一串島嶼，屬於日本沖繩縣，但到台灣的距離，卻比去那霸還近…」(松田良孝，2012)，因距離台灣較近，黑潮又從此流經，因此早在這區域中就形成漁民的重要漁場。在台灣成為日本領土後，兩地國界劃分不再，內台定期航線[10]的開拓使得人、物的流動往來更加頻繁。1935 年沖繩縣政府對移居台灣的縣民人口進行調查，住在台灣的沖繩人有 3930 人，來自八重山地區則有 1454 人，占 37%，同年度的國勢調查，八重山地區人口不過占沖繩縣的 6%，可見移民比率相當。二戰期間，因美軍日益逼近的緊張局勢，使得當時許多琉球民眾疏散至台灣，稱為「疏開」[11]，此臨時性有目的的大規模移動，本文在此較不深入探討。

本研究欲在日本統治台灣的五十一年中，主要聚焦於台灣人為何要移入到八重山諸島、台人分布狀況、人口數量、從台灣哪些地區移出、為何在該地選擇殖民經濟性較鮮明之產業、與原鄉生活、工作之差異、與在當地所佔人口比例等問題，，最後歸納整理台籍移民特色。

二.　研究目的

在台灣的國民教育中，從不重視以台灣為出發點、海島特性的看待周邊國家，教科書更不會教導我們去認識過去在這島上曾經密切的貿易交流過往，而是將從事海上貿易者，當作擁兵自重的「倭寇」來看待；且研究八重山與台灣

---

[8] 1871 年，廢藩制縣，最初稱為深津縣，隔年改名小田縣。1875 年，小田縣東半部併入岡山縣，西半部則併入廣島縣。

[9] 「生番」一詞在本文並無歧視原住民意味，僅使用當時代用法。

[10] 據「大阪商船株式會社八十年史」(大阪商船三僅船舶株式會社編，1966)，起初內台定期航線有兩條。(1)神戶—下關—長崎—鹿兒島—沖繩—基隆，此班為每月一趟，(2)神戶—鹿兒島—大島—沖繩—基隆，每月兩趟，第一艘「須磨號」於 1895 年 5 月 5 號自神戶起，行駛第一類路線，到台灣共計需九日。

[11] 「疏開」即為疏散之意，為日治時期由台灣總督府在 1944 年 6 月 18 日發表，為避免美軍對台空襲所造成的人民傷亡，緊急疏散之政策，尤以 1944 年 10 月 12 日起的台灣沖航空戰期間有大量琉球民眾暫時疏開至台。

間的移民，在台灣地理、歷史學界並不是這麼熱門，因此為了將其理解清楚，擬定下列研究問題：

1)論述有關台灣、琉球間的歷史脈絡關係。

2)分析八重山諸島的台灣移民為何而來、人數、如何移動、分布地點、從事產業類型等等。

3)分析為何台人進入八重山後會選擇從事鳳梨產業、稻作、甘蔗、與礦業等殖民經濟性較鮮明之產業。

4) 台人與當地居民之衝突與合作、再討論文化移植。

5) 綜合性論述有關台籍移民的特性與移民者於原鄉的工作與生活型態進行比較。

三. 研究區域

本文研究區域主要為台灣與八重山諸島。「八重山」位於台灣東部外海上 110 餘里、沖繩的西南方 400 餘里處，為日本距台灣最近之島群，而八重山諸島是由石垣島、西表島、竹富島、黑島、小浜島、嘉彌真島、新城島、鳩間島、波照間島與與那國島等 10 個有人島所組成，周圍另有 19 個無人島，再加上宮古群島合稱為先島群島。這些島嶼都屬於亞熱帶海洋性氣候，年均氣溫為 24 度，冬天也維持在平均 18 度以上，而島嶼的生成主要與板塊運動地殼隆起將海底珊瑚礁層層向上推，進而形成今日星羅棋布的樣貌。

現今以國家內的區域劃分，八重山諸島隸屬沖繩縣，石垣島因人口較多而自成一市，其餘西表島、竹富島、黑島、小浜島、嘉彌真島、新城島、鳩間島、波照間島與與那國島隸屬八重山郡。

此地區域原為琉球王國(1429-1879 年)轄下領土，以旱作物與漁業為主，並定期向琉球王納稅，至 1879 年日本對琉球王國進行「琉球處分」，琉球才成為日本管轄下的沖繩縣。日本統治台灣時期，兩地同屬一國，許多台灣移民能夠自由進入八重山地區，將其農業生產的器具、水牛、種苗一併帶入此地，近代化工業技術的導入，也使西表島所蘊藏的大量煤礦被有效率的產出。藉由新興的土地開墾、工作機會產生，人、物的移動在台灣與八重山之間，往來密切、通暢，也因此本研究為了解決在日本統治台灣時期，兩地區的交流、人相互移動的關係，清楚的將其脈絡爬梳，再去討論本文於研究目的所擬定之研究問題。

圖 3.1 八重山諸島圖(松田良孝，2012)

四. 文獻回顧

依照本研究題目所需之文獻詳見參考資料，下方對各項文獻進行分類，如下：

(一)區域歷史與日治時期環境與政治

依本研究之問題，首先來尋找建構在日本統治台灣時期，八重山與台灣兩區域各自的歷史脈絡。先透過較易入門的《大人的日本史》來理解在 1872 年日本國在此設立琉球藩至 1879 年廢藩制縣，正式納入日本版圖之過程稱做「琉球處分」。在東亞東海這塊海域中，過去人們的海上交流早已頻繁接觸，不管是貿易還是因天災而漂流至他地，藉由黃智慧《人群漂流移動史料中的民族接觸與文化類緣關係：與那國島與台灣》此篇文章中，採用三筆不同性質卻同為相關人群的漂流移動史料紀錄，作探討 15 世紀末 19 世紀初從文獻紀錄中來爬梳台灣與八重山群島的民族接觸，第一筆為朝鮮濟州島人漂流至與那國島之經驗與所見所聞。第二為從《石垣市史叢書》中，作者發現在 17-18 世紀初八重山群島當時所記錄與台灣的交流史料，指出台灣為者及漂流者之安身之處，待季風氣候良好後再返回。最後為八重山當局取締「唐船」走私貿易之規章中，提到「高砂」來的船隻被指名為可能偷渡基督或天主教傳教士或走私物品等對象。由上述三筆資料作者整理分析這些漂流史料，只是整個環繞中國東海國家在 15-19 世紀初年所產生的複雜海上互動之一環，牽繫著台灣與八重山群島之間民族接觸往來與社會文化類緣關係。在黃智慧的另一篇收錄於宜蘭縣史館的《東方海上的另類遭遇：與那國島與台灣》著作中清楚地說明了日本統治台灣

時期與那國島與台灣之間貿易、漁業、人的移動關係。

台灣的部分會先以《帝國的入侵： 牡丹社事件》作為台灣為何會成為日本領土開始。從琉球漂民八瑤灣事件開始，日本所展現的對台企圖，至牡丹社事件後清帝國對於恆春半島依舊的消極態度，再到甲午戰爭後(日清戰爭)台灣割讓給日本，詳細論述之。再以黃昭堂先生所著之《台灣總督府》作為整個日本統治台灣時期的政策背景，本書是台灣總督府的編年史記，理性解析日本統治台灣的 51 年間灣歷任台灣總督及其統治架構為論述中心，敘述當時歷任總督所實施的政策與成效，從正反二面全面地檢討日本統治台灣的功過，以及在不同階段台灣人的應對之道。

最後以又吉盛清《日本殖民下的台灣與沖繩》一書，從庶民的視角來觀看本統治台灣時期台琉之間的各項交流互動，再輔以朱惠足的《來自帝國邊境的近代畫推動者：沖繩八重山諸島與殖民地台灣統治》一文，藉由曾到殖民地台灣工作的沖繩八重山諸島出身者之自傳、回憶錄及訪談文本，介紹沖繩八重山諸島成為殖民地台灣經營的前鋒之後，日本語、日本文化及近代物質文明，未經由沖繩的中心地首里、那霸，而繞道台灣回流到八重山諸島的歷史背景及概況。再回頭檢討日本近代化工程與帝國主義相結合的過程之後，分別討論八重山諸島與台灣的接觸，突顯出大日本帝國之近代化的以下問題：近代化與日本化的相互關係、近代化的不均等發展以及資本集中化之下勞工階級的產生，從此文中不僅可窺見到從台灣，近代化下是如何帶進文化、產業與人至八重山。

(二)台人移至八重山人口、分布

為詳細理解當時台人移至八重山的人口與分布，松田良孝《植民地統治時期嵩田地区への移動について―石垣町役場作成の寄留簿の分析を通じて》一文中，以石垣町的寄留[12]簿來整理當時台灣人移至石垣島嵩田、名蔵地區的數量、年齡分布、寄留者原鄉分布等人口地理之研究問題，但此文僅限於八重山諸島其中最大島石垣島。1996 年，石垣島嵩田地區台灣人集資偏了《嵩田：50 年のあるみ》一書為輔，中譯為《嵩田：走過 50 年》，而這五十年從二戰結束後算起，林発《沖縄パイン産業史》一書中亦有整理從台灣來八重山的產業移民數量與職別。藉由上述資料再加上八重山新報、八重山每日新聞、八重山日報、先島朝日新聞、台灣日日新報、台灣時報等當時報紙與官方統計資料，如總督府公文、沖繩統計資料書、台灣各州廳管內紀要之統計資料與《沖繩縣史 第 7 卷移民》等資料，來詳細明瞭日治時期台人移居八重山的人口、數量與分布。

(三)台灣人於八重山的產業發展

現今翻閱文獻，除了原先宜蘭花蓮與八重山人在此地的漁民外，發現台人帶入八重山地區的產業多屬於殖民經濟下主力發展之稻米、甘蔗、鳳梨，而另一部分則是從事礦業。而為讓上述產業發展有更詳細的脈絡論述，以、《沖縄パイン産業史》、《八重山開拓と台湾農民》分析為何台人進入八重山後會選擇從事鳳梨產業、稻作、甘蔗、與礦業等殖民經濟性較鮮明之產業。松田良孝所著《八重山的台灣人》一書中主要以口訪方式訪問在石垣島嵩田、名蔵地區的台灣人，從台灣人怎麼來、定居於哪、從事產業與個人生活經驗有詳細口訪之紀錄，更加著墨於這些台籍民眾在二戰後的身分轉換問題。

(四)合作、衝突與文化移植

[12] 在本籍以外一定地方達到一定時間，會被記載戶政資料之寄留簿內。

當一批台人移入到八重山後，是相處的和樂融洽還是被當成他者，是本文在此討論重點。藉《八重山的台灣人》、《作為交界場域的「現代性」：往返於沖繩八重山群島與殖民地台灣之間》、《石垣島の台湾人—生活史にみる民族関係の変容(一)》等輔以其他文本，討論台人與當地居民之衝突[13]與合作，再討論台人至八重山的文化移植。像《八重山的台灣人》書中提到「台灣移民帶進 30 頭水牛到石垣島開墾，但八重山人恐懼土地會被奪走，開始排斥水牛與台灣人。」(松田良孝，2012)，在八重山的地方報中也提到有關八重山人因怕台人使用水牛讓耕田效率變高，因而報導水牛帶到八重山後造成當地的疾病感染率增加等報導。在朱惠足《作為交界場域的「現代性」：往返於沖繩八重山群島與殖民地台灣之間》文中提到，「移居八重山的台灣人不但將台灣的閩南文化再移植到八重山，八重山在地社會因民族差異、被殖民者歧視與生存競爭而將台灣人移民他者化的論述，……」(朱惠足，2007)，不過台人雖帶入各自文化進入八重山，但在這樣的邊陲孤島地區，也因「討生活」的問題再加上戰爭期間的皇民化運動，漸漸浮現區域內部的共同體，也因而像是以民間方式成立了，在此文中更提到「繞道回流的『日本』，再移植的『閩南』」，原先只懂得出身島方言的八重山人，透過殖民地台灣來的工作與生活，漸漸學習日語，甚至學習日本精神與家庭規範等等。最後由野入直美的《石垣島の台湾人—生活史にみる民族関係の変容(一)》文中以生活史為中心，主要關心從日治時期到戰後台灣人社會在石垣島的生成、變化的過程，而台人在戰前帶來的鳳梨產業戰後成為八重山地區的重要產業，此時與八重山人的關係也有所變化，文中也針對此變化從衝突、戰爭、轉變、相互扶助，的過程有所討論。

[13] 在日統治時期的台灣，漢人在街上看到「穿著琉球服飾、手上有刺青、赤腳行走叫賣」的琉球婦人，輕蔑的稱其為「日本的生蕃」(又吉盛清 1994:54-55)

圖 4.1 八重山諸島放大圖（松田良孝，2012）

嵩田地区へ転入した人の出身地分布圖。

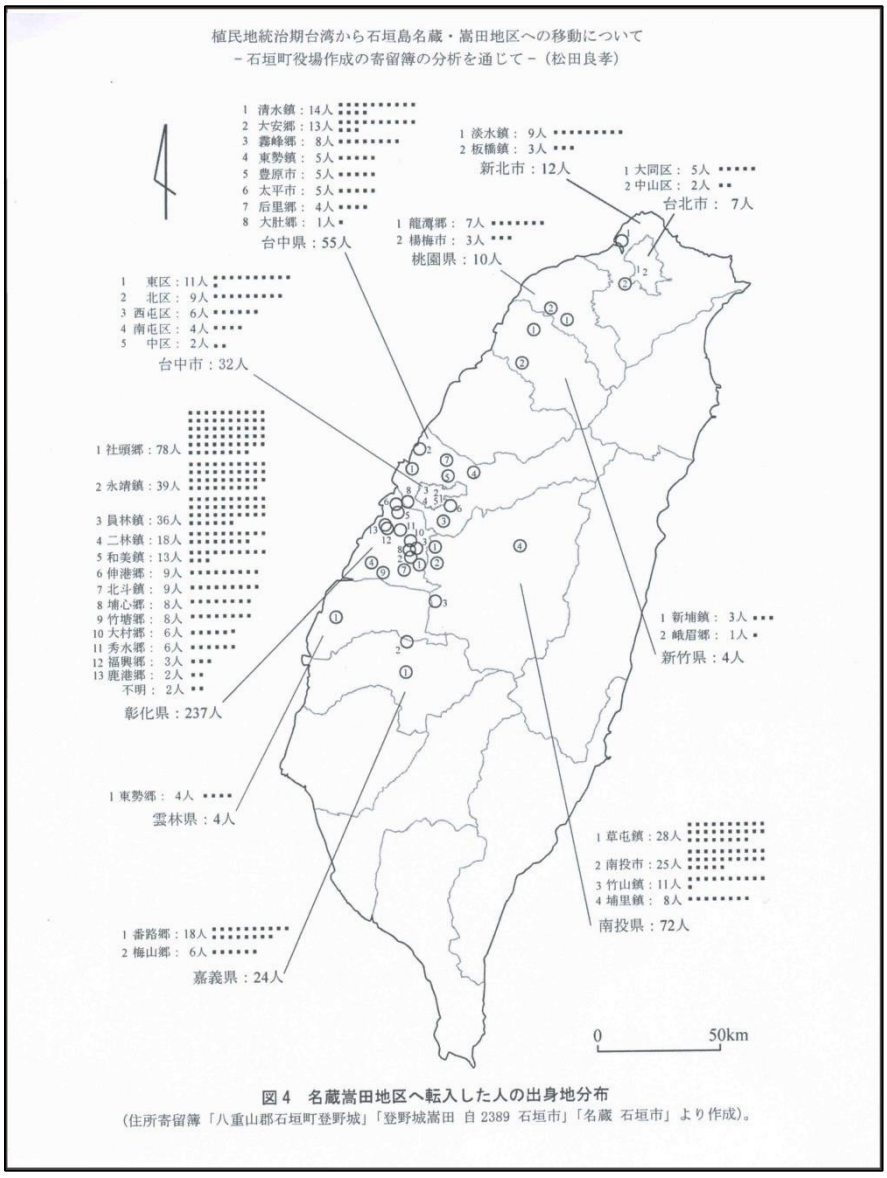


図4　名蔵嵩田地区へ転入した人の出身地分布
（住所寄留簿「八重山郡石垣町登野城」「登野城嵩田 自 2389 石垣市」「名蔵 石垣市」より作成）。

嵩田地区

への移動について―石垣町役場作成の寄留簿の分析を通じて》一文中。

五. 研究方法

本研究將運用文本分析、田野調查與口述訪談等方法進行台灣與八重山地區移民研究。利用前人在此區塊的研究論文、期刊資料等進行文本的整理，再

配合田野調查法與口述訪談法來相互驗證文本與口述間的相同、相異處。各項內容如下：

1) 文本分析

本研究透過論文、專書、期刊、報紙、總督府公文類纂等不同文本、不同階層角度的文獻，整理爬梳當時在此地區移動的歷史，再綜合性的討論。

2) 田野調查

本研究區雖離台灣本島距離較近，但因國界的劃分、人口的流失老化，造成過去往來此地的民眾不在，目前直達方法能透過由基隆港以郵輪方式直達石垣島但時間較久且又屬於郵輪式的上下船，因此不再考量範圍內，目前前往石垣島之班機僅能透過先飛至那霸再折回石垣島之方式，或是花蓮機場有夏季不定期航班等，未來宜蘭縣蘇澳港有計畫於 2016 年 5 月與石垣島達成雙方港口互相通航。

考量交通與時間的成本，預計在研究所期間前往此地兩次，並先研擬所要觀察之重點再配合口述訪談的內容。

3) 口述訪談

訪談對象、團體會以在地八重山組織或人物，如：嵩田地區公民組織與當地台人及其後代、八重山在地記者松田良孝與琉球大學教授野入直美等教授等人並配合實地的田野，能彌補文本中不足的部分，並且更能夠與文本相互對話，讓筆者能夠更加清晰理解其脈絡。

4) GIS 技術導入與地圖出圖

本研究透過 GIS 的各種技術，呈現出幾張不同主題的地圖，例如：台灣人於石垣島人口分布、台灣人與八重山地區人口比例、移動路線、產業分布等圖，利用圖來直接視覺性的表示該地過去人口的狀況。再透過 GIS 的環域分析，歸納整理台人在八重山居住的同質性或異質性。

六. 研究架構

根據研究目的與文獻回顧的探討，建立本文的研究架構。架構如下：

首先透過文獻梳理八重山地區與台灣在現代性國家尚未進入前的交流與其歷史脈絡。

第二，藉由總督府公文類纂、八重山當地報紙(如：八重山新報、八重山每日新聞、八重山日報、先島朝日新聞)、台灣日日新報、沖繩統計書、台灣各州廳管內概要等資料來整理在日本統治台灣時期本島人[14]移置八重山諸島的人數狀況與分布地點、從事產業類型、文化移植等研究問題。

第三，據文獻回顧所述，分析為何台人進入八重山後會選擇從事鳳梨產業、稻作、甘蔗、與礦業等殖民經濟性較鮮明之產業。

第四，分析整理台人與當地居民之衝突、合作與文化移植。

第五，綜合性論述有關兩地移民的特性與移民者於原鄉的工作與生活型態進行比較。

七. 研究時程

本研究預定於 2015 年 10 月開始，預計於 2016 年 06 月底前完成研究計

[14]日本統治台灣時期，將台灣漢人、原住民與來自母國的日本人，分別稱為本島人、蕃人(高砂族)、內地人，以此於以此稱呼區別。

畫。初步研究時程規劃請見表 7.1。

表 7.1 研究時程規劃

	2015 冬季(10-12 月)			2016 春季(1-3 月)		
文獻回顧						
田野調查與訪談						
GIS 出圖						
文本撰寫						
	2016 夏季(4-6 月)			2016 秋季(7-9 月)		
文獻回顧						
田野調查與訪談						
GIS 出圖						
文本撰寫						
	2016 冬季(10-12 月)			2017 春季(1-3 月)		
文獻回顧						
田野調查						
GIS 出圖						
文本撰寫						
	2017 春季(4-6 月)					
文獻回顧						
田野調查						
GIS 出圖						
文本撰寫						

八. 預期結果

本研究所劃定的研究區為整個八重山諸島，相較於現今有關此地區的書籍、文獻，都較屬於研究八重山的較大聚落、島嶼，如：石垣島、與那國島、西表島等，少有整體論述整個八重山地區的先關文獻，《八重山的台灣人》名雖為八重山，但是取該地區最大、人口最密集的政治中心石垣島做為該書重點，

也因此該作者所蒐集的資料多屬石垣島為主，又以嵩田、名蔵等台灣人聚落為核心。而除了史料跟田野來爬梳歷史脈絡，再加上筆者的 GIS 能力，用圖呈現其人口議題(如網格式人口分佈圖)與其空間特色，會更有意義。

九. 參考文獻

（一）專書

1.黃昭堂，2013，《台灣總督府》，台北市：前衛出版社。

2.又吉盛清，1997，《日本殖民統治下的台灣與沖繩》，台北市：前衛出版社

3.戴寶村，2008，《帝國的入侵: 牡丹社事件》，台北市：自立報社。

4.涂豐恩，2015，《大人的日本史》，台北市：平安文化。

5.松田良孝，2012，《八重山的台灣人》，台北市：行人出版社。

6.沖繩縣教育委員會，1974，《沖繩縣史 第七卷 移民》，那霸：沖繩縣教育委員會。

7.渡辺盛暉，1992，《八重山開拓と台湾農民》，東京：凱風社。

8. 嵩田公民館紀念誌編輯委員会，1996，《嵩田：50 年のあるみ》，石垣：嵩田公民紀念誌編輯委員会。

9. 牧野清，1972，《新八重山史料》，自費出版。

10.林発，1984，《沖縄パイン産業史》，自費出版。

（二）期刊論文

1.黃智慧，1995，《東方海上的另類遭遇：與那國島與台灣》〈宜蘭文獻〉第 17 期，頁 1-11。

2.黃智慧，1997，《人群漂流移動史料中的民族接觸與文化類緣關係：與那國島與台灣》〈考古人類學刊〉第 52 期，頁 19-41。

3.野入直美，2000，《石垣島の台湾人—生活史にみる民族関係の変容(一)》〈琉球大学法文学部人間科学紀要：人間科学〉第五號。

4.朱惠足，2007，《作為交界場域的「現代性」：往返於沖繩八重山群島與殖民地台灣之間》，〈文化研究〉第五期，頁 49-86。

嵩田地区への移動について—石垣町役場作成の寄留簿の分析を通じて》〈移民研究〉第九號，頁 1-18。

（三）其他

1.研討會文章：

朱惠足，2002，《來自帝國邊境的近代畫推動者：沖繩八重山諸島與殖民地台灣統治》，「重訪東亞：全球、東亞、國家、公民暨 2002 年文化研究學會年會」研討會，2002 年 12 月 14、15 日，台中：東海大學。

2.公部門資料：總督府公文類纂、沖繩統計書、台灣各州廳管內概要等。

3.報紙：八重山新報、八重山每日新聞、八重山日報、先島朝日新聞、台灣日日新報、台灣時報。